

拳ノ川小学校

『確かな学力を備え、豊かな心を持ち、体力に富み、主体的に活動する拳の子』の育成

校長 南 早百合

◆はじめに

本校は、本年度4人の入学児童と2年生に1人の転入児童を迎え入れ、全校児童18人で教育活動をスタートさせました。校舎は緑豊かな自然に包まれ、とても協力的な保護者と優しく温かい地域に支えられています。

児童は、一人一人の個性を輝かせながら日々の学習に取り組む、学年の枠を越えて仲良く楽しく学校生活を送っています。元気で気持ちの良いあいさつができる児童、時と場所に応じたきちんとした言葉づかいができる児童がほとんどで、高学年の児童は低学年の児童の世話を上手に、優しくできています。一方、苦手なこと、じっくり落ち着いて取り組んだり、最後まであきらめずに自分の力でやり遂げることに課題があります。

◆学校教育目標

「確かな学力を備え、豊かな心を持ち、体力に富み、主体的に活動する拳の子」の育成に取り組んでいます。今年重点目標を、「夢をかなえるために確かな学力を備えた子どもを育てる」とし、特に、次の点を中心に取り組みを進めていきます。

◆コミュニティ・スクールとして、地域・家庭・学校と三者が連働(連結・協働)した取り組み

「信頼される学校づくり」拳ノ川の未来を拓く子どもを育てる」というテーマのもと、3つの委員会でコミュニティ活動を進めていきます。「学び・文化」コミュニティの主な取り組みは、11月の収穫祭で発表する子どもたちの課題調べ学習、若山楮学習、そして拳ノ川地区で300年以上の伝統がある「そばまき踊り」の練習です。「自然・環境」コミュニティでは、山の学習親子自然観察、栗拾い、山芋掘り、ニラ料理のレシピ作りなどを計画しています。「健康・福祉」コミュニティでは、田植え、サツマイモ栽培、3世代ふれあい健診、高齢者施設訪問などを行います。

自然体験や地域の人々とのふれあい体験を通して子どもたちは、自然や地域への愛情や感謝の気持ちを持つようになり、表現力も伸ばしています。



今年、6月の参観日には若山楮畑で、家族で作業をしました。



昨年度、11月の収穫祭では、お父さんたちが山芋汁を作ってくれました。



昨年度、2月、「あったかふれあいセンター」訪問で落語を披露。

◆確かな学力を備えることをめざした取り組み

○校内研修の充実

昨年度から佐賀中学校区区の4校が指定を受けユニバーサルデザインによる授業づくりについて研究をしています。すべての子どもが「分かる」「できる」授業をめざし、環境、活動内容、教材・教具、評価の工夫などについて、指導案検討会や研究授業を通して研究を続けています。



3・4年生の算数の研究授業

○放課後加力学習

本年度は、帰りの会の後の30〜40分間、加力学習タイムを設定しています。苦手を勉強については補習を、得意な

勉強については応用問題などへの挑戦をしていく予定です。1・2年生は、原則、月・火曜日に、3〜6年生は、木・金曜日に行っています。

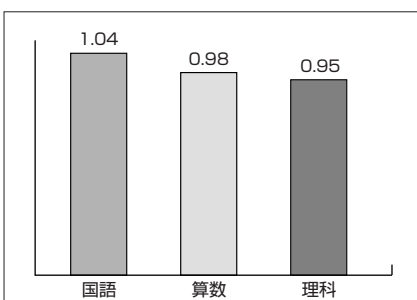


○学力調査の結果

左のグラフは、4月に実施した標準学力調査の全国通過率です。学力調査の結果を分析し、課題を明らかにし、課題解決や授業改善に取り組んでいきます。

平成27年度 標準学力調査結果

(全国を1とする)



大方中学校

「二人一人を大切に
学校を目指して」

校長 久保 良高

本校は生徒177人と教職員26人で「心豊かで、たくましく、意欲を持って学ぶ生徒の育成」を教育目標として掲げ取り組んでいる学校です。

今年度は昨年度までの実践を継承しつつ、次の2つの県教育委員会の研究指定を受け、日々生徒の健全育成に努めています。

①ことばの力育成プロジェクト

本指定は本年度が3年目になります。主な内容は、図書を活用した教育活動の実践・県教委作成の各種学習シートの活用・新聞を活用した授業実践の3つです。

毎朝、全校で「朝読書」の時間を確保していますが、どの学年もシーンと静かに集中して読書ができており、昨年度からは、新たに「辞書読書」にも挑戦しています。また、月1回地元ボランティアによる「読み聞かせ」を行っており、生徒たちも楽しみにしています。「校外でも生徒のほうから、あいさつや声かけ

をしてもらい嬉しかった」というお話をボランティアの方からお聞きして、学校としても嬉しく思ったことでした。



全学年で毎年、新聞作りも行い、生徒による新聞社への記事の投稿も定期的に行っており、今年度になってから2回掲載されました。また、指定事業に関わって、いろいろなコンクール・コンテストへの応募や参加も毎年積極的に行い、学校賞や優秀賞などの結果を残すことで、生徒の達成感や満足感につながれていると思います。これらの活動・取り組みを通して「読む」「考える」「まとめる」「伝える(書く・話す)」

などの力を育成することで、基礎学力・応用力も身に付け「生きる力」につなげていきます。

平成27年度 標準学力調査結果

(全国を1とする)

	国語	社会	数学	理科	英語
1年	1.00	0.94	1.00	0.99	
2年	1.12	1.04	0.89	1.06	1.09
3年		0.88			0.77

②夢実現プロジェクト

もう1つは県教育委員会人権教育課の夢プロジェクト事業です。鳴門教育大学の久我先生をスーパーバイザーとして「子どもたちの自尊心を高めることによる落ち着いた温かみのある学校作り」を目指した取り組みです。

【重点的な目標】

- 一 一人を大切にし、聴く
 - 一 時間を守る
 - 一 生徒会活動の活性化
 - 一 ルールやマナーを守る
- 本校ではこれらのことを目指し、まず「学校をきれいに

する掃除に一生懸命取り組む」ことにしました。3年生の男子にはマイ便器を大小4つ受け持ち、毎日雑巾でびかびかに磨いている生徒もおり、3年生のトイレはいつ行ってもきれいに使われています。全校集会では聴くことを徹底してきたことで静かに整列し、人が話をしているときには本当に体育館の中が物音一つしない状態で集会が行われています。

生徒会活動では、対面式での学校紹介のDVDの上映、レクの企画、部活動紹介、生徒総会等の企画運営をこなす中で自信もつけ立派に生徒会活動の充実が図られています。

また、生徒会活動の一環として、毎朝生徒会執行部を中心に各部活動ごとにローテーションで、正門前でのあいさつ運動を行っています。

月ごとに目標を決め取り組んでいます。6月は学習に焦点を当てた月間とし、優秀な授業ノートをグッドノートとし展示、表彰をしています。このノートを参考に全員が自分に合った使いやすいノート作りができることを期待しています。

◆地域貢献

地域の一員として少しでも地域に貢献をしていこうとボランティア組織「元気会」を編成しています。活動ごとに参加者を募り、地域に出てボランティア活動をします。

5月には入野の浜で行われた「はだしマラソン」でのボランティアに参加し、地域や県外からの参加者の皆さんにも声をかけられ充実した活動ができました。7月には「アクアスロン」でも活動しました。これからも地域の一員として地域の活動にも参加し、地域からも大切にされる中学校を目指していきます。

